

早稲田大学 人間科学学術院 人間科学会 諸費用補助成果報告書 (Web 公開用)

申請者 (ふりがな)	浅見 祐香 (あさみ ゆか)
所属・資格 (※学生の場合は課程・学年を記載)	人間科学研究科・博士後期課程 2 年
発表年月 または事業開催年月	2021 年 9 月
発表学会・大会 または事業名・開催場所	日本心理学会第 85 回大会・オンライン開催
発表者 (※学会発表の場合のみ記載、共同発表者の氏名も記載すること)	浅見祐香, 石川満里聖, 野村和孝, 嶋田洋徳, 大石裕代, 大石雅之
発表題目 (※学会発表の場合のみ記載)	窃盗症における窃盗行動喚起に関連する認知的要因の検討
発表の概要と成果 (抄録を公開している URL がある場合、「概要・成果」を記載した上で、URL を末尾に記してください。また、抄録 PDF は別途ご提出ください。なお、抄録 PDF は Web 上には公開されません。) 再犯防止対策の体系化が課題となっている窃盗犯には、窃盗行動に対する依存である窃盗症が含まれることが指摘されている。そこで本研究では、窃盗症における窃盗行動の喚起に関連する認知的要因を検討することを目的とした。民間医療機関に通院中の窃盗症患者 15 名と大学生および大学院生 43 名を対象に、窃盗症状や認知的特徴を問う質問紙と潜在的な窃盗に対する接近的態度を測定する認知課題 (窃盗 IRAP, 窃盗 AAT) を実施した。なお、窃盗 IRAP に関しては、達成基準を満たさなかった窃盗症患者 9 名と大学院生 1 名を分析対象から除外した。その結果、窃盗症患者は大学生と大学院生よりも窃盗症重症度が高く、QOL, 報酬知覚が低い一方で、窃盗 IRAP と衝動性が低く、反社会性やセルフコントロールは差がないことが示された。また、窃盗症患者は、窃盗 IRAP とセルフコントロールの高さとの間に強い正の相関 (.88) が確認された ($p<.05$)。これらのことから、窃盗症においては、「窃盗をしてはいけない」という規範を内在化しているにもかかわらず、窃盗特有の衝動を制御できずに窃盗行動が引き起こされている可能性があると考えられる。	

※無断転載禁止